

グローバル化時代の東アジアにおける教育・学習活動の
イノベーション

— 関西大学を拠点にした国際共同研究基盤の形成に向けて —

平成 23 年度 関西大学重点領域研究助成
研究成果報告書

平成 24 年 2 月

目 次

はしがき	i
グローバル化時代における教育・学習活動のイノベーション — 地域創造の担い手としての学校への活動理論的アプローチ —	山 住 勝 広 1
日常の表現への関心の生産から開かれる経験 — Multimodal Learning Note プロジェクトの概要報告 —	比留間 太 白 17
海外における言語教室のインタラクション分析 — 「空間」・「環境」・「文化」をキーワードとして —	池 田 佳 子 39
小学校入門期の算数科における子どもの数的活動 — 中国・日本・韓国・シンガポール、4カ国で使用される算数科教科書の比較検討を通して —	石 井 康 博 55
City and Space as a Category of Educational Thinking: An Another Approach to the Educational Practice	Byung-Jun Yi Ji-Yeon Park 73
Engaging Teachers in Reflective Practice: An Activity Theory Approach from Hong Kong	Edmond Law 79

はしがき

—研究成果の概要—

本冊子は、平成 23 年度関西大学重点領域研究助成金を受けて行った、研究課題「グローバル化時代の東アジアにおける教育・学習活動のイノベーション—関西大学を拠点にした国際共同研究基盤の形成に向けて—」の研究成果を報告書として公表するものである。

本研究の目的は、グローバル化時代の東アジアにおける教育・学習活動の新たな理解とデザイン、イノベーションと実践の開発のために、関西大学が拠点となって主導的役割を果たし、韓国（釜山国立大学）、中国・香港（香港教育学院）、シンガポール（シンガポール国立教育研究所）の 3 か国の研究者との持続的な協力関係を構築することにより、新しい多文化共生の時代に求められている教育・学習活動のイノベーションに関する文化横断的な比較調査や分析、研究交流を行い、今後において展開可能な国際共同研究の基盤形成を構想するところにあった。

そのため、次のような研究組織によって、(1) 教育・学習活動のイノベーションに関する 4 か国間の国際共同研究の基盤形成のための理論的・方法論的フレームワークの構築、(2) 4 か国間での教育・学習活動の実態に関する比較調査と分析、(3) 4 か国間での教育・学習活動の革新的な実践開発に関する文化横断的な比較と研究交流を進めていった。

研究組織

	氏名	所属・資格 (所属研究機関)	研究分野	役割分担
代表者	山 住 勝 広	関西大学文学部・教授	教育学、教育方法学、活動理論	全体総括、全体コーディネーション
分担者	比留間 太 白	関西大学文学部・教授	心理学	教育・学習活動の革新的な実践開発と研究交流
	池 田 佳 子	関西大学国際部・准教授	第二言語習得論、談話・会話分析、社会言語学	教育・学習活動の実態に関する比較調査と分析
	石 井 康 博	関西大学文学部・准教授	教育学、算数科教育学	教育・学習活動の実態に関する比較調査と分析
	YI Byung Jun	Pusan National University・Professor	生涯学習論、教育哲学	韓国における教育・学習活動のイノベーション
	LAW Edmond Hau Fai	Hong Kong Institute of Education・Associate Professor	カリキュラム研究、授業研究	中国・香港における教育・学習活動のイノベーション

今日、あらゆる教育の「段階」と「場」において、異なる多様な個人やコミュニティが協働して、創造的な活動や新しいコミュニケーションの形態に積極的に参加し、自らの未来を自らの力で形成する主導的な担い手として発達してゆくような学習が真に求められている。しかしながら、従来の教育・学習研究では、学校やさまざまな教育機関の役割を知識伝達や技術革新に限定する傾向が依然として顕著であるように見受けられる。

一方、東アジア諸国では、グローバル化時代の社会変化に対応するために、いずれの国においても、

ほぼ2000年の前後に時を同じくして、新たな教育改革の取り組みを開始している。しかし、こうした学校内外での教育・学習活動のイノベーションに関する研究は、従来、(1) 欧米の概念を大幅に取り入れるとともに、欧米との対比においてのみ比較が行われてきた、(2) 単一の国ごとの詳細な実証研究のみが蓄積されている、といった問題点をもっている。

そこで、本研究では、このような欠落を埋めてゆくために、欧米との比較に留まらず、(1) 東アジア域内での文化・歴史的な差異を踏まえた、文化横断的な比較研究の新たなアプローチを開拓し、(2) 従来の研究では類例を見ない、グローバル化時代の教育・学習活動のイノベーションに関する東アジア域内での多国間の比較研究を進めることに取り組んだ。

本研究の具体的な研究成果としては、第1に、東アジアにおける教育・学習活動のイノベーションに関する国際共同研究の基盤を形成するために、協働の比較研究を可能にするような、理論的・方法的フレームワークを構築し、その共有を図っていった。そのさい、もっぱら欧米の概念や理論にのみもとづき、欧米との対比においてのみ独自性を特徴づけてゆくといった、従来の研究に見受けられるようなアジアの教育・学習研究のあり方を乗り越え、東アジア域内における文化・歴史的な差異を踏まえた多国間の比較研究に挑戦し、新たな学校と教育の仕組みを創造するためのアイデアやツール、概念やモデルの構築をめざした。こうした理論的・概念的フレームワークの構築については、本研究成果報告書の山住勝広論文が論述している。

第2に、東アジアにおける教育・学習活動の実態に関する比較調査と分析の一環として、日本、韓国、中国・香港、シンガポールの4か国の算数科と外国語のカリキュラム、教科書、授業、学習活動を取り上げ、教室外のインフォーマルな知識や学習の影響、学習に対する「感覚」や「価値観」の比較調査と分析を実施した。本研究成果報告書では、池田佳子論文と石井康博論文が、こうした比較調査と分析の結果と考察について叙述している。

第3は、4か国間での教育・学習活動の革新的な実践開発に関する文化横断的な比較と研究交流として、地域社会において「持続可能な生き方」をテーマに学校内外の多様なパートナーが協働の学びあいの活動と交流を創造してゆくハイブリッドな教育・学習活動のイノベーション、モバイルIT機器を活用した多様なモードの表現活動を通してフォーマルな学習とインフォーマルな学習の関心や経験を有機的に統合してゆくような教育・学習活動のイノベーション、そして学校の教師たち自身による学校現場をベースにした授業研究と専門性開発の支援、それを通じた子どもたちの探究的で協働的な学びあいの活動の創造について、各国の文化・歴史的な背景や視点、要因や影響を踏まえながら進めた開発研究の成果である。本研究成果報告書の山住勝広論文、比留間太白論文、YI Byung Jun 論文、LAW Edmond Hau Fai 論文がこうした実践開発の研究成果について論述している。

本研究では、以上のような関西大学を拠点にした東アジアにおける国際共同研究の基盤形成のために、研究交流として、研究分担者である韓国／釜山国立大学校 教育学科 (Department of Education, Pusan National University) のYI Byung Jun教授と中国・香港／香港教育学院 カリキュラム・授業学科 (Department of Curriculum and Instruction, Hong Kong Institute of Education) のLAW Edmond Hau Fai 准教授、研究協力者であるシンガポール／シンガポール国立教育研究所 自然科学・科学教育研究グループ (Natural Sciences and Science Education Academic Group, National Institute of Education

Singapore) の LEE Yew Jin 准教授を招へいた第7回国際シンポジウム「新しい学びの挑戦」*The 7th International Symposium 'New Learning Challenges' (NLC 2011)* を2011年7月30日-31日に関西大学 千里山キャンパスにおいて開催した。そのプログラムは次の通りである。

The 7th International Symposium 'New Learning Challenges' (NLC 2011)

30-31 July 2011, Kansai University

第7回国際シンポジウム「新しい学びの挑戦」

Theme: Learning challenges in the East Asian region

2011年7月30日(土) ~ 31日(日)

関西大学 千里山キャンパス 以文館 2階 プロジェクト・インキュベーション・ラボ

Today, new forms of human activity are experiencing accelerated paradigm shifts from mass-production-based systems to new systems based on inter-organizational collaboration, building partnerships, and networking across cultural, organizational, and occupational boundaries. As human activity rapidly changes to partnering and networking among diverse cultural organizations, we need to ask ourselves whether schools and other contexts devoted to learning are equipped to prepare people for such practices. We also need to consider what kind of learning can generate critical and creative agency among learners. Such agency will help people shape their own lives and futures, which are gradually undergoing transformation.

The 7th International Symposium 'New Learning Challenges' (NLC 2011) aims to identify and discuss educational and learning innovations in the age of globalization, and to advance comparative studies on new learning challenges between such the East Asian countries as Hong Kong, Japan, Korea, and Singapore.

Program (Honorific titles are omitted.)

10:00-17:50 Saturday, July 30, 2011

10:00-10:30 Katsuhiko Yamazumi (Kansai University, Japan)

Learning in and for cultural creation: A hybrid educational innovation through activism in Japan

10:30-11:00 Futoshi Hiruma (Kansai University, Japan)

Necessity of theoretical orientation and multimodal perspectives in higher education

11:00-11:30 Keiko Ikeda (Kansai University, Japan)

(Trans) culturally-informed classrooms: Case of Japanese as a foreign language in N.

America and Asia

11:30-12:00 Yasuhiro Ishii (Kansai University, Japan)

Children's numerical activities in first graders' elementary mathematics classrooms: A comparative research on textbook of China, Japan, Korea, and Singapore

<Lunch>

【Keynote Lectures】

13:00-14:30 Byung Jun Yi (Pusan National University, South Korea)

City and space as a category of educational thinking: An another approach to the educational practice

14:40-16:10 Yew Jin Lee (National Institute of Education Singapore, Singapore)

Boundary objects and learning at the boundaries: Teaching and learning elementary science in Singapore

16:20-17:50 Edmond Hau Fai Law (Hong Kong Institute of Education, Hong Kong SAR)

Critical moments of teacher learning: A discourse approach

10:00-12:00 Sunday, July 31, 2011

10:00-10:30 Mitsuyuki Inaba (Ritsumeikan University, Japan)

Collaborative activities for transcultural learning

10:30-11:00 Jiro Hasumi (Kyushu University, Japan)

Collaborative learning and strong democracy

11:00-11:30 Tomoki Furukawa (Kansai University, Japan)

Transcultural interactional competence: An analysis of listening behavior by Chinese and Korean learners of Japanese language

11:30-12:00 Plenary Discussion

平成 23 年度 関西大学重点領域研究助成 研究成果報告書

グローバル化時代の東アジアにおける
教育・学習活動のイノベーション
— 関西大学を拠点にした国際共同研究基盤の形成に向けて —

研究代表者 山住 勝広
関西大学 文学部 教授

2012 年 2 月 29 日発行

